

第2次宇陀市総合計画 中期基本計画

令和4年1月

宇陀市

<u>はじめに</u>	00
-------------	----

<u>宇陀市の紹介</u>	00
---------------	----

第1編 中期基本計画の策定にあたって

第1章 計画の構成と期間	00
第2章 計画の進行管理	00
第3章 SDGsの考え方の導入	00
第4章 宇陀市を取り巻く社会情勢の変化	00
第5章 まちづくりの課題	00

第2編 基本構想

第1章 宇陀市の基本理念と将来像	00
第2章 将来像の現実に向けた目指すまちの姿	00
第3章 人口ビジョン	00

第3編 基本計画

第1章 まちづくりの基本戦略	00
第2章 施策体系	00
第3章 施策と持続可能な開発目標 (SDGs) との関係	00
第4章 施策の方向性	00

はじめに

宇陀市では、2017年度に策定した、市政運営の指針となる「第2次宇陀市総合計画」に基づき、まちづくりを進めてきました。2022年度からは「中期基本計画」の計画期間となることから、新たに中期基本計画を策定しました。

計画の策定にあたっては、人口減少問題や地域経済の活性化、雇用の確保など、既に顕在化している課題をはじめ、暮らしの中で感じている課題についてアンケートや座談会を開催し、その反映に努めてきました。

また、これまでの施策を振り返るとともに、変化し続ける社会情勢に対応するため、今後の宇陀市のまちづくりを牽引するリーディングプロジェクトを位置づけています。

その他にも、宇陀市の将来像や目指すまちの姿の実現に向けて取り組んでいく施策においては、新型コロナウイルス感染症の影響による新しい生活様式やSDGsの考え方の導入等を踏まえアップデートを図っています。

本計画に基づき、将来像の実現に向けた施策を進めていきます。



(鳥見山から雲海に包まれた宇陀を臨む)

宇陀市の紹介

宇陀市は2006年1月1日、宇陀郡の大宇陀町・菟田野町・榛原町・室生村の4町村の合併により誕生しました。奈良県の北東部に位置し、北は奈良市、山添村、西は桜井市、南は吉野町、東吉野村、東は曾爾村、三重県名張市に接しています。本市の総面積は247.50km²、県全体の6.7%を占めています。市域は大和高原の南端に位置し、四方を山に囲まれた高原都市です。そのため、宇陀市役所付近は標高308m、曾爾村境界付近は標高700mを超え、市域内での高低差が大きくなっています。

本市は、山地に囲まれた豊かな支川環境があり、スズランの自生の南限地やカザグルマ草の自生地もあります。市内の河川にはオオサンショウウオが生息していることから、水質をはじめとした水生環境の良さがうかがえます。

気候は、内陸性気候であり、冬は季節風の影響を受けるため、寒さが厳しい一方で、夏は冷涼となっています。降水日数も多く、年間降水量は約1,500mmとなっています。

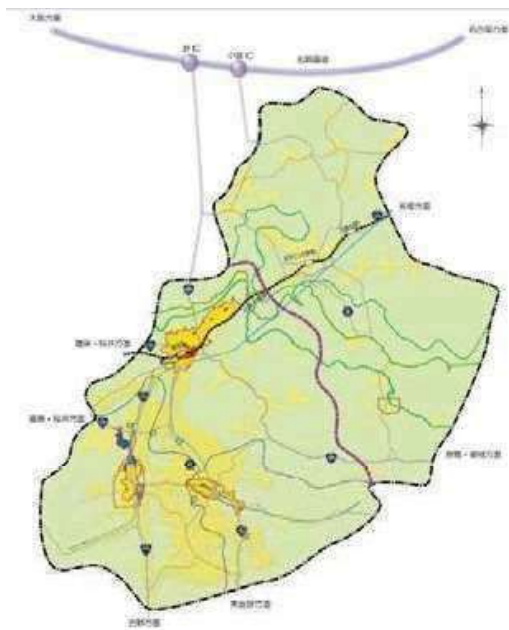
交通の面では、近鉄大阪線によって、京都・大阪方面や名古屋・伊勢方面と結ばれており、また、大阪方面から本市への自動車によるアクセスは、名阪国道針インターチェンジと大阪・松原ジャンクション（西名阪自動車道）が約1時間で結ばれる距離にあります。

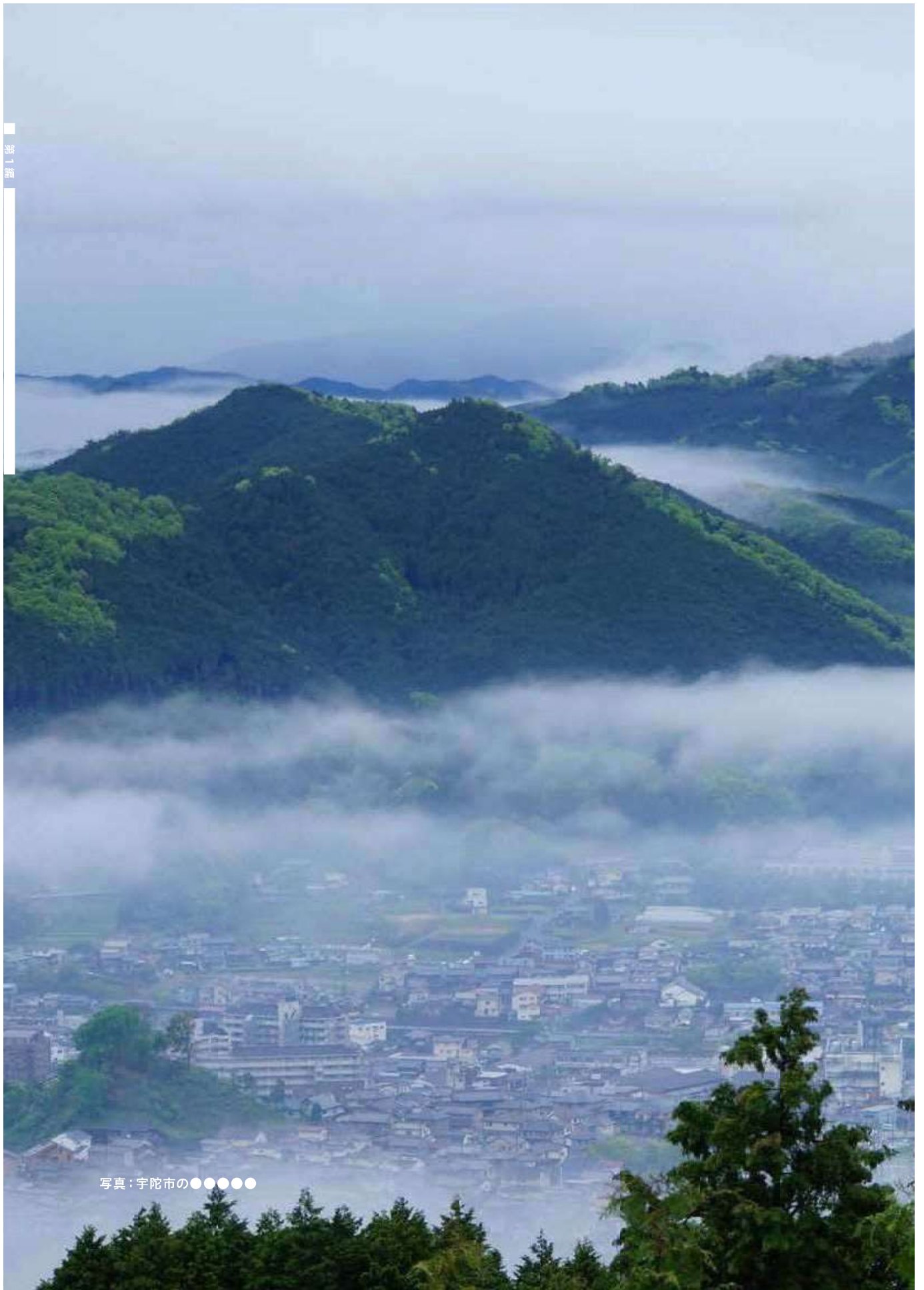
本市の産業は、農業や林業を中心とした構造となっています。農業では、夏でも冷涼な気候、昼夜の寒暖差の厳しさを生かした米や茶（大和茶）の生産が盛んです。他にもダリアやごぼう、きれいな水を生かして作られる吉野本葛も主要な特産品となっています。林業では、住宅の床柱に使われる磨き丸太が特産品となっています。

また、製造業では、毛皮革生産が世界的にも有名です。本市では、革のなめしから、加工・縫製・販売までを一貫して行える体制を持っています。特に鹿革については、全国シェア95%以上、毛皮についても45%のシェアを誇っています。

宇陀の地は、古くから「古事記」「日本書紀」等の歴史書のなかに記載がみられ、神武伝承の舞台としても知られています。また「万葉集」では柿本人麻呂の「かざろひ」の歌等にも詠まれており、これらのことから古代における王朝との関わりをうかがうことができます。

本市の第2次総合計画では、将来像として「みんなが生きがいをもって暮らせる魅力ある健幸なまち宇陀市～輝く歴史と豊かな文化の息づくまち～」を定めており、その実現のために「健幸なまち」「暮らしやすいまち」「活力あるまち」「生涯輝くまち」「自然豊かなまち」「地域力を発揮するまち」6つのまちを目指して進めています。





写真：宇陀市の●●●●●



第1編

中期基本計画の策定にあたって

第1章 計画の構成と期間

総合計画は、基本構想と基本計画で構成します。

基本構想

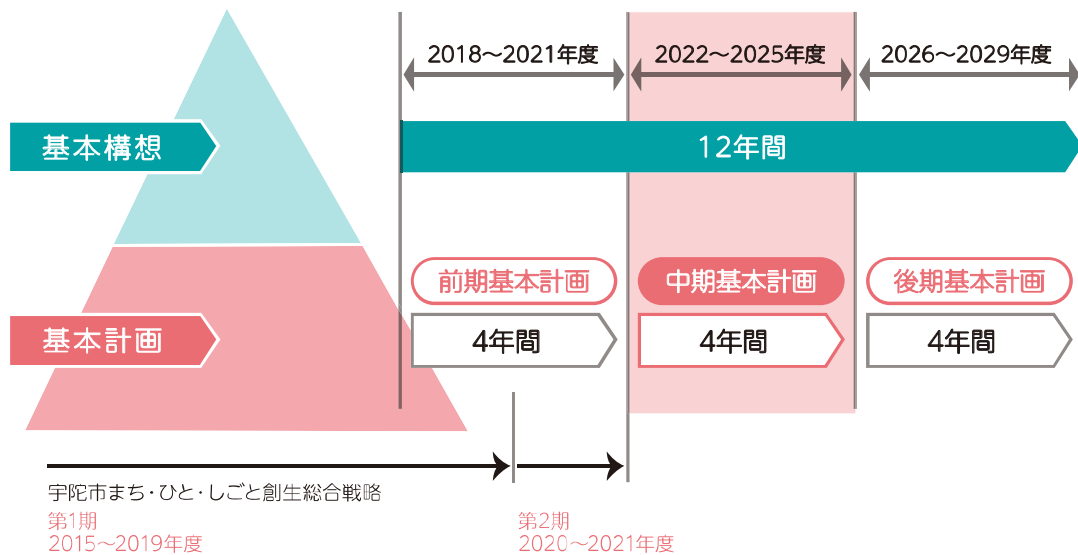
基本構想は、目指す将来像やその実現に向けた目標、施策の概要を示すものです。

【計画期間】 2018年度～2029年度の12年間

基本計画

基本計画は、基本構想に基づき、将来像を実現するための具体的な施策を体系的に示すものです。

【計画期間】 前期/2018年度～2021年度の4年間
 中期/2022年度～2025年度の4年間
 後期/2026年度～2029年度の4年間



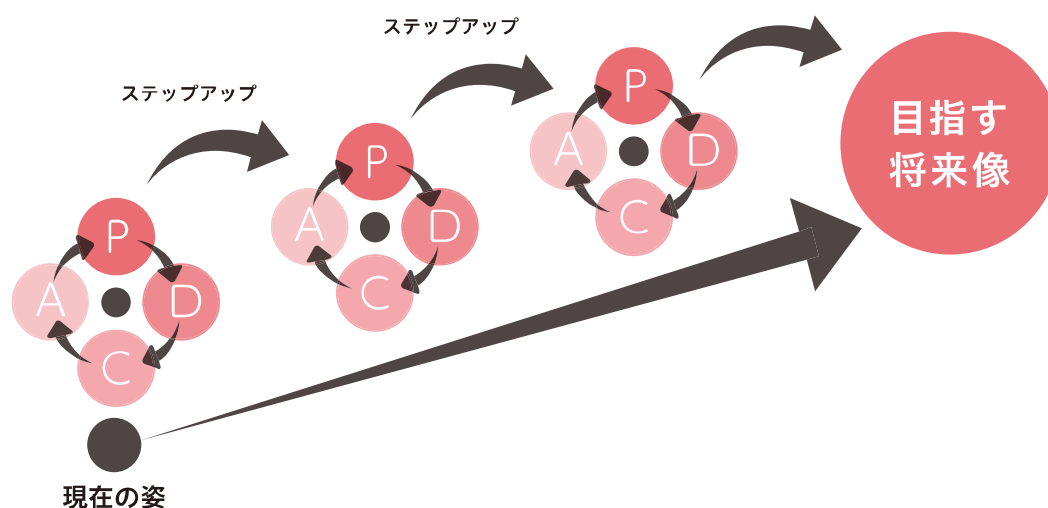
* 総合戦略の施策が総合計画に含まれることから、2020年度に総合戦略を総合計画に一本化しています。

第2章 計画の進行管理

(1) PDCAサイクルの実践

総合計画で取り組む目指すまちの将来像を実現するため、中期基本計画（Plan）にもとづいて、事業を実施し（Do）、事業の成果や達成の整理、目標に向けた評価・検証を行い（Check）、必要に応じて事業の改善や見直しにつなげ（Action）、その結果に応じて改めて計画に反映させます（Plan）。

PDCAサイクルを毎年度繰り返し実施することで進捗管理を行い、目標達成に向けたより効率的・効果的な事業構築につなげます。



(2) 評価の方法

計画の構成に合わせて、基本構想と基本計画のそれぞれについて評価を行います。

基本構想は、「目指すまちの姿」がどの程度実現できているのかについて、新たに基本計画を策定する4年ごとに評価します。

基本計画では、「施策」の進捗状況について毎年評価します。

【基本構想及び基本計画の評価方法】

	評価項目	評価指標	評価方法
基本構想	「目指すまちの姿」の実現度	<ul style="list-style-type: none"> ・「目指すまちの姿」に対するアウトカム指標（成果指標） ・市民等に対するアンケート結果における満足度や重要度等 ・「施策」の進捗状況 	<p>左記3つの評価指標を用いて総合的に判断し、I～Vの5段階で評価する。</p> <p>I：目指すまちが十分に実現できている。 II：目指すまちが概ね実現できている。 III：目指すまちがある程度実現できている。 IV：目指すまちがあまり実現できていない。 V：まざすまちが全く実現できていない。</p>
基本計画	「施策」の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・「施策」に基づいて実施している事業について、計画通り進捗している割合と点数化 	<p>各事業の目標値に対する実績値の割合を算出し、点数化する。 （宇陀市独自の取組みで評価できる事業の目標値を掲げるものとし、法定受託事務等で行っている事業は除く。）</p> <p>【実績値/目標値により点数化】</p> <p>a：100%は4点 b：80%以上100%未満は3点 c：60%以上80%未満は2点 d：40%以上60%未満は1点 e：40%未満は0点</p> <p>次に各施策の事業の平均値を、施策の総合評価とする。</p> <p>A（3.5以上）：施策が十分に実現できている。 B（2.5点以上3.5点未満）：施策が概ね実現できている。 C（1.5点以上2.5点未満）：施策がある程度実現できている。 D（0.5点以上1.5点未満）：施策があまり実現できていない。 E（0.5未満）：施策が全く実現できていない。</p>

第3章 SDGsの考え方の導入

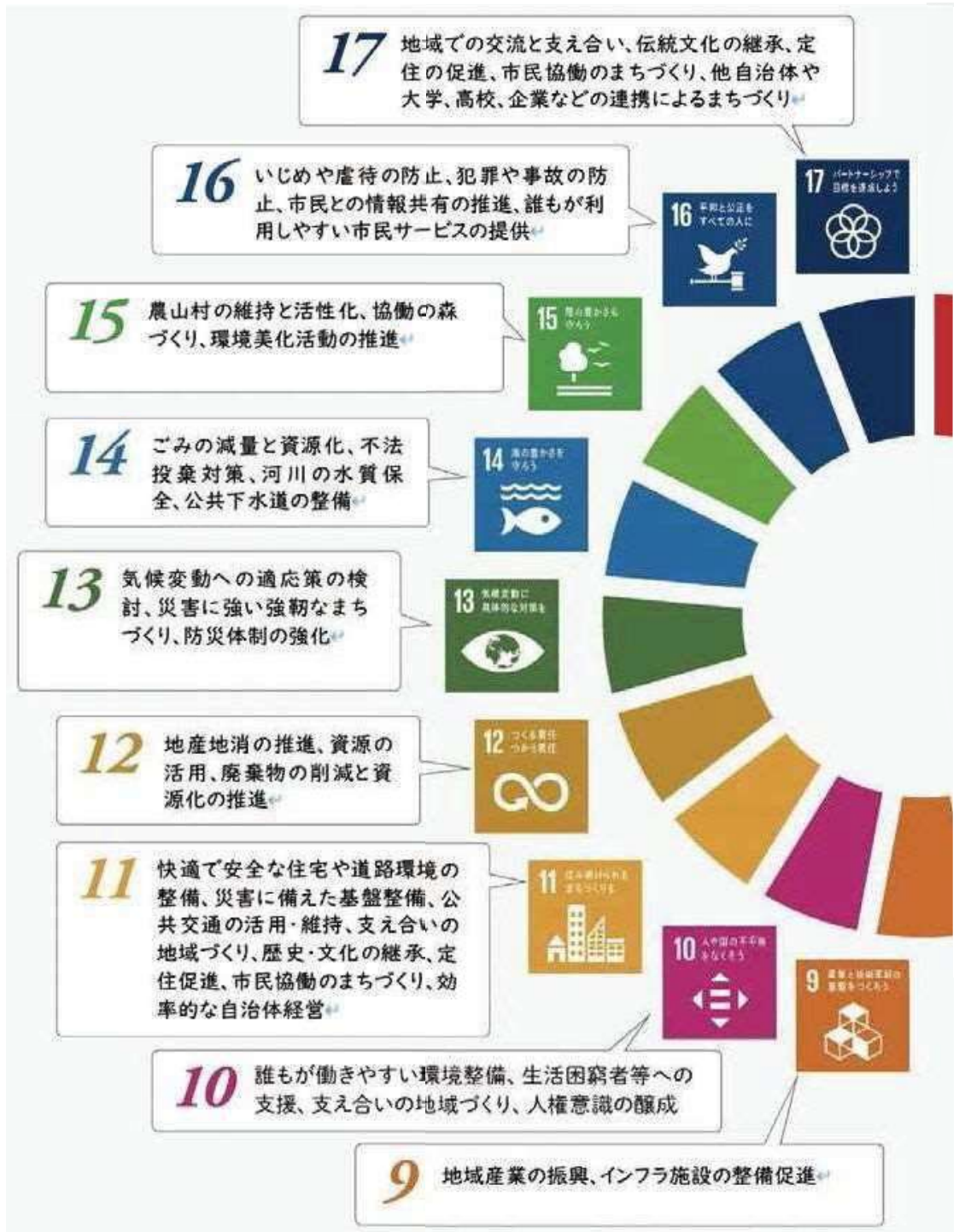
SDGs (Sustainable Development Goals) とは2015年の国連サミットで採択された2030年までの国際目標のことです。「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会を実現するために、17分野の目標と、その下に目標と紐づいた169ターゲット、232の指標が決められました。

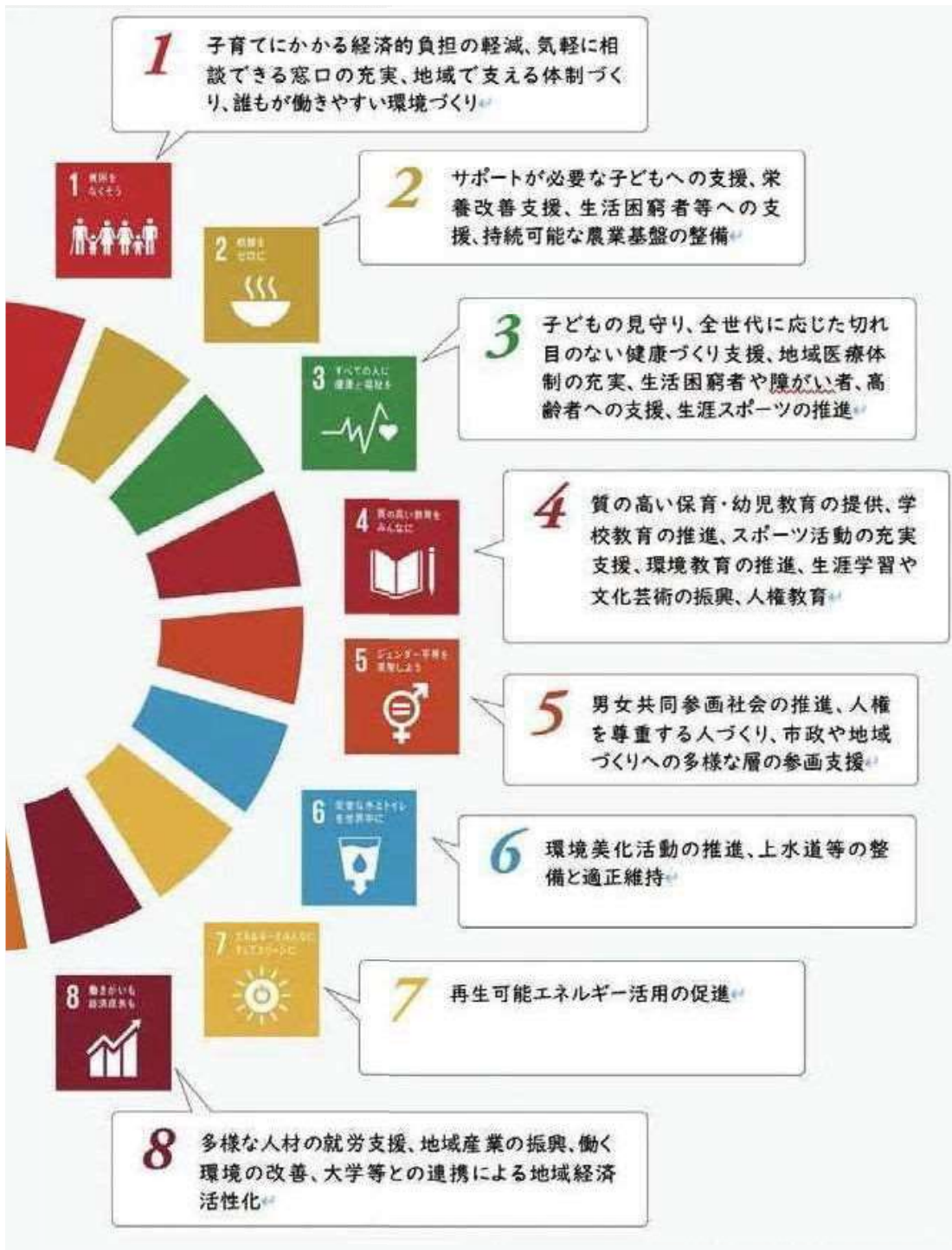
SDGsの理念を踏まえ、宇陀市は、中期基本計画にSDGsの17の目標を関連付けました。皆さんや企業、各機関と連携しながら施策や事業を実施し、目標達成のための取り組みを進めることで、未来にわたって持続可能なまちづくりを推進していきます。

【SDGsの17分野の目標 (ゴール)】



17のゴールから見た中期基本計画の主な取り組み





第4章 宇陀市を取り巻く社会情勢の変化

2018年に前期基本計画を策定して以降、宇陀市を取り巻く現状はコロナ禍による新しい社会像や価値観の定着などにより変化しています。また、その変化のスピードは速く、急速に変わりつつあります。

(1) 人口減少・少子高齢化の進展

国勢調査による日本の総人口は、2010年をピークに減少しており、総人口に占める高齢者の割合は、2020年では28.6%となっています。

宇陀市の人口は国より早い1995年にピークを迎え、それ以降、減少が続いています。高齢化率も上昇し続け、2020年では41.9%と、2.4人に一人は65歳以上になっています。また、14歳以下の人口は減少し続け、2020年には2,481人と、最も人口の多い1995年に比べて4,339人(63.6%)減少しています。

人口の減少や少子化・高齢化の進展により、消費の縮小や労働の減少、まちの活力低下など様々な影響が生じていることから、持続可能なまちづくりを進めていくことが重要です。

(2) 新型コロナウイルス感染症がもたらした社会の変化

新型コロナウイルス感染症は、世界的な大流行となり、世界規模で社会的・経済的に大きな影響をもたらしました。宇陀市においても、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、感染が拡大している地域への不要不急の往來の自粛や一部業種の営業自粛を行うなど、市民生活や地域経済に影響を与えました。

また、感染拡大に伴い、対面から非対面・非接触へのシフトやテレワークが広がり、都市部での暮らしから地方で働き、暮らすスタイルに関心が高まるなど、新しい生活様式や企業活動が大きく変化しています。

引き続き、感染症対策を徹底し、ウィズコロナ時代に応じた新しい生活様式の実践を推進するとともに、影響を受けた市民生活や地域経済の回復・活性化を進めていくことが重要です。

(3) 自然災害の多発化・激甚化

近年、100年に一度と言われるような甚大な被害を及ぼす自然災害が各地で発生しています。宇陀市においても2019年の台風19号による豪雨災害が発生し、市民の生活だけでなく、道路等のインフラにも甚大な被害をもたらしました。

今後も地球温暖化の影響で、自然災害の多発化・激甚化に加え、局所的な豪雨や南海トラフ地震など、予測が難しい災害の増加が予想されます。そのため、県等との連携を強化し、災害時には全市民に対して迅速に情報が伝わるよう、多様な情報伝達手段の確保や感染症対策等の機能を有した避難所の確保が必要です。

災害発生時には、行政が対応できない事態が起こる恐れがあります。いつ起こるかわからない災害に備えて、市民・地域・行政がそれぞれの役割分担と協働のもと、減災・防災対策に取り組むことが重要です。

(4) グリーン社会の実現に向けた脱炭素化

世界を取り巻く環境問題は、経済活動の拡大やエネルギーの大量消費等による地球温暖化、プラスチックごみによる海洋汚染、自然環境の変化による生物多様性の喪失など、地球規模で対応しなくてはならない問題となっています。

国においては、2050年脱炭素社会の実現に向けた「地域脱炭素ロードマップ」が決定され、地方における脱炭素化の取り組みを推進しています。

宇陀市においても、豊かな自然環境を次世代に引き継ぐため、環境にやさしいライフスタイルへの転換を進めるとともに、省エネルギーの推進など、環境への負荷が小さい循環型社会の形成を進めることが重要です。

(5) デジタル社会の加速化

近年、IoTやAI、ロボット等に代表される技術革新が進んでおり、デジタル技術を活用して地方創生につなげることが期待されています。しかし、新型コロナウイルス感染症によって、様々な分野でデジタル化の遅れが浮き彫りとなりました。

そのため、デジタル庁を核として全ての人にデジタル化の恩恵が行き渡る社会を構築するための施策が進められているところです。生産、販売、消費といった経済活動だけでなく、健康、医療、農林業など幅広い分野での活用やテレワークの拡大など働き方にも変化を及ぼすと考えられます。

今後、人口減少や少子高齢化の進展に伴い、労働力人口の減少が予想される中、新たな技術を活用して労働力を補充していくとともに、地域経済の活性化につなげていくことが重要です。

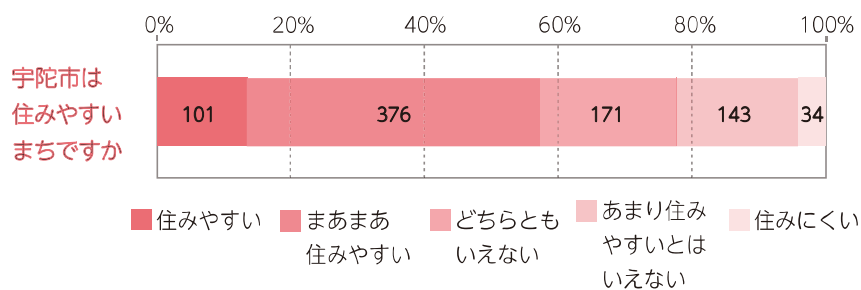
第5章 まちづくりの課題

市民の方々の宇陀市についての印象・イメージ等の意識やこれまでのまちづくりに対する評価、これからのまちづくりに対する意向を把握するため、アンケート調査を実施しました。

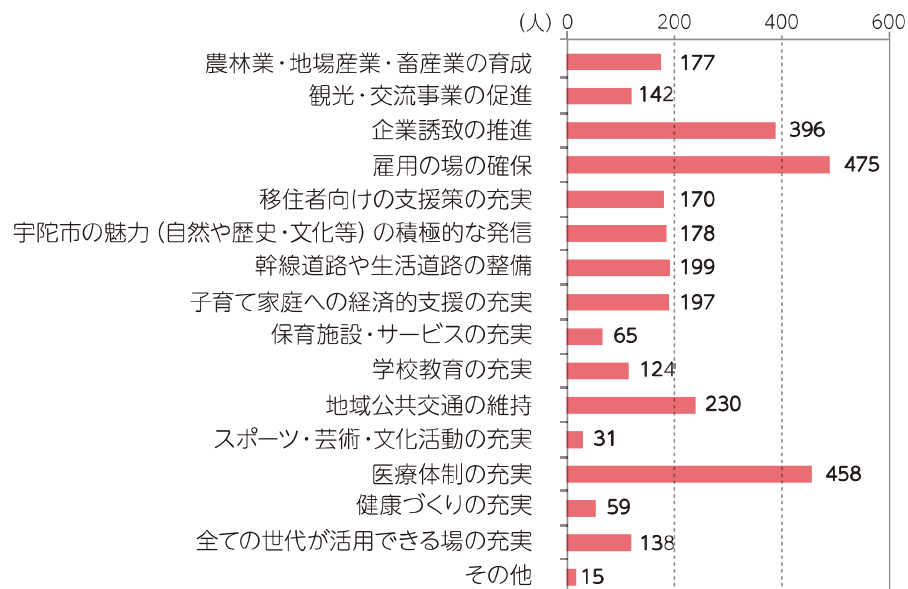
その結果、全体の約6割が「住みやすい」「まあまあ住みやすい」と回答しています。一方で、「商工業の振興」や「農林畜産業の振興」、「土地の有効活用」、「働く場所」の満足度が低い結果が出ています。

また、これから必要な取り組みとして、「雇用の場の確保」や「医療体制の充実」、「企業誘致の推進」、「空き家の有効活用」と回答された方が多くなっています。

【宇陀市の住みやすさに対する印象】

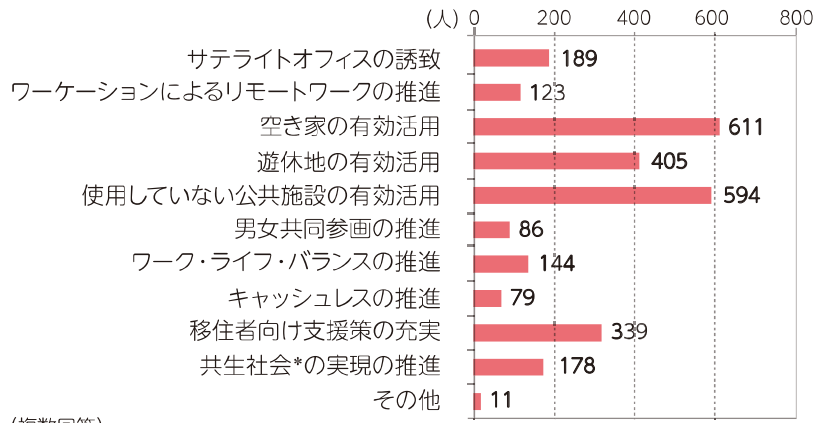


【人口減少・地域活性化対策として必要な取り組みについて】



(複数回答)

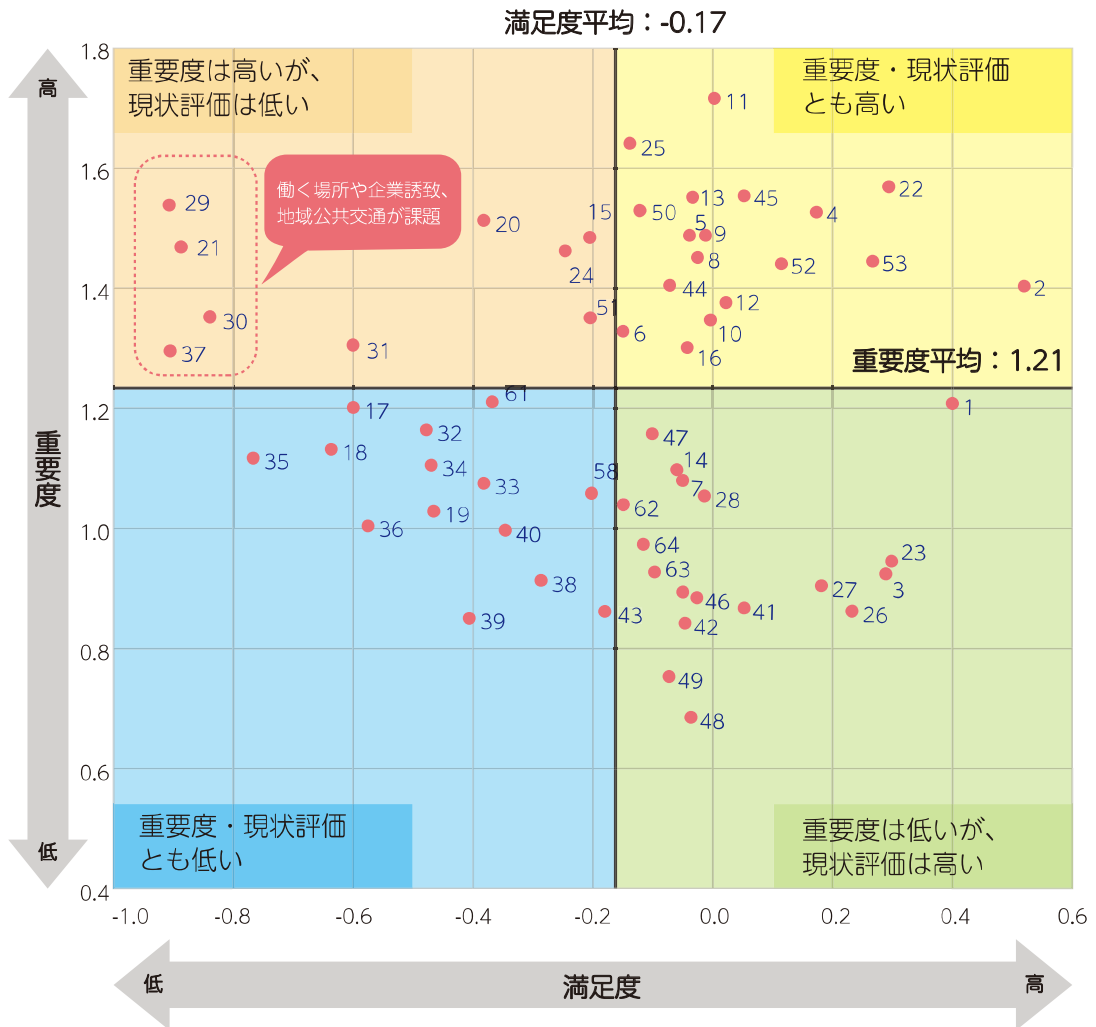
【ライフスタイルの多様化に対応した取組みとして重要と思われるもの】



(複数回答)

*障がいのある人や配慮が必要な人等の多様な背景を持つ人々との価値観の共有

【前期基本計画の施策の満足度・重要度】



施 策	
1	健康づくりのためのイベント等の開催や検（健）診の受診奨励
2	予防接種の啓発や接種奨励
3	いきいき百歳体験など、介護予防対策
4	介護・福祉サービス
5	障がいのある人へ生活支援
6	困難を抱えた家庭への相談や生活支援
7	福祉に携わる団体等とのネットワークづくり
8	保育サービスなど、仕事と子育ての両立支援
9	子育て支援の充実
10	母子保健事業の充実
11	市立病院や診療所等の地域医療の充実

施 策	
12	地域医療と福祉の連携（宇陀けあネット）の充実
13	子どもや高齢者等に対する福祉医療の充実
14	景観や環境に配慮したまちづくり
15	交通事故の未然防止のための整備や啓発
16	地域防犯への取組みや消費者問題に対する相談窓口の設置
17	計画的な土地利用に配慮したまちづくり
18	空き家の活用など、定住支援
19	U・I・Jターン者への支援
20	安全で快適な道路環境
21	市内を移動しやすい地域公共交通
22	水の安定供給のための水道施設の維持
23	「うだちゃん」など、情報通信技術を活用した情報発信
24	耐震診断や耐震改修の補助など、災害の未然防止対策
25	災害時における円滑な避難・防災活動
26	文化財・伝統芸能・祭り・行事等の保護・活用
27	史跡や重要伝統的建造物群保存地区の歴史的まちなみ等の整備
28	市内で生産された特産品や名産品の利用
29	宇陀市で働ける場所づくりの支援
30	新たな切り口や視点からのビジネスの創出
31	農道の整備や鳥獣害対策・耕作放棄地解消に向けた取組み
32	農産物の生産から加工販売、木材・間伐材の利用促進
33	付加価値のある農産物の栽培や食品ブランド化
34	森林の保全と宇陀市産木材の活用
35	商店街の活性化支援
36	商品開発など、事業所への支援
37	企業誘致による新たな産業展開
38	案内看板の設置や登山道の整備
39	観光資源を活かした周遊・滞在型観光、スポーツツーリズムの推進
40	観光誘客に向けたホームページやSNSを活かした情報発信
41	人権について学ぶ機会の提供
42	男女共同参画の推進
43	市内事業者へのワーク・ライフ・バランスの啓発
44	プログラミング教育など、学校教育の充実
45	安心して学ぶ環境の整備
46	榛原総合センターなど、生涯学習施設の整備と講座等の開催
47	学校、家庭、地域が一体となった教育力の醸成
48	スポーツ施設等の計画的な整備と各種スポーツ大会の開催
49	芸術・文化活動による地域の活性化
50	ごみゼロ美化運動や不法投棄防止の取組み
51	里山など、自然環境の保全
52	ごみの減量化にむけたリサイクルの推進
53	し尿処理など、生活衛生環境の向上
54	市営斎場等の整備・運営
55	公園の計画的な維持
56	公園緑地空間の整備
57	積極的な情報共有
58	自治会やまちづくり協議会等が抱える地域課題に対する行政の参画
59	健全な財政運営
60	効率的な業務運営体制
61	ICTを活用した取組み
62	周辺自治体との連携・交流の推進
63	自治会やまちづくり協議会との協働や支援を通じた地域力の向上・強化
64	市民活動の支援

20年後の 宇陀市に向けて



市役所若手職員と子育て中の方にそれぞれ集ってもらったワークショップと座談会。
ワークショップでは20年後の宇陀市に向けて「続けたいこと・残したいこと」「課題・困っていること」「チャレンジすると良いこと・変えたほうが良いこと」を個々で書き出し、テーブルごとに話しながら想像を膨らませていきました。
市長との座談会では、ワークショップでの内容のまとめや普段の考えを話す場となりました。



こんな意見が出ました

20年後の宇陀市に向けて

続けたいこと／残したいこと

- 学校 ○豊かな自然／環境／緑 ○ゆったりした時間 ○公園が多い ○うだちゃん ○宇陀市広報
- 名所／文化財／歴史建築物（宝生寺など） ○いなか（ちょうどよい／生活に困らない） ○空気
- 風景（山に囲まれている／山が近い） ○松山地区地区等のまちなみ（好き） ○山多い（整備はしたい）
- 林業（もっと推したい） ○自転車のまちイベント／まちづくり（推したい） ○インスタ映え
- 治安の良さ ○子どもの時から過ごしやすい

課題／困っていること

- 飲食店／外食 ○いなか ○本屋・図書館がない ○スーパー ○買い物づらい（コストコ欲しい）
- 過ごせる場所／遊び場が少ない ○子どもが屋内で遊べる場所 ○道がせまい ○働く場所
- 商業施設が少ない（アニマルパークしかない） ○地域が広い ○人口減少 ○子どもも少ない ○高齢化
- チェーン店がない（選びたいのに選べない／価格競争起きない） ○車がないと動けない
- インフラ老朽化（橋やばい） ○住居：一人暮らし賃貸少なく家賃高い（2K以上しかない）
- 施設管理が多い（合併前のものが残っている） ○ケーブルテレビ（地デジがきていない）
- 自転車／バイク危ない（山道たいへん／自転車道） ○都市ガスが通っていない

チャレンジするといいいこと／変えた方がよいこと

- 子育てしやすい環境 ○高齢者に優しい暮らし ○SNS活用 ○働く場所をつくる／増やす
- 長所を持つ（宇陀市といえば「これ」というものがない） ○テレワーク施設をつくる／通勤緩和
- 个性的なお店 ○アート（山上公園活用／まちなかにあるとよい） ○ショッピングモールほしい
- 若い人向け観光事業スポット（山上公園／インスタ映え／ルート開発） ○空き地など有効活用
- 子育て世代の定住促進（住む土地が少ないので入ってきやすくしたい／子育てに力を入れて全国ニュースに／実家に戻る人ばかりで新規者が少ない）
- プロスポーツチーム本拠地（運動場を整備） ○合宿の町（体育施設多／宿泊施設）
- 建物のリノベーション ○大学・専門学校（土地があるのでキャンパス誘致）
- 目標の見える化（現状がアバウト） ○市民への分かりやすい優遇（目に見えるように）

ワークショップ

子育て中の市民

2021.11.05



こんな意見が出ました

続けたいこと／残したいこと

- 人 ○豊かな自然／風景 ○田舎度合 ○街なみ ○歴史 ○近鉄の駅
- 有機野菜を含めた農業事業 ○林業や農業の生業 ○稲作 ○銭湯 ○図書館（本屋）
- 子育て支援センター ○すくすく教室 ○見守り ○伝統の行事／仕事 ○地域の祭事
- 市役所と市民の距離感が近い ○お節的な人間関係 ○人との繋がり

課題／困っていること

- 遊具増やしてほしい ○人とのつながり ○人口減少 ○書店がない ○水道料金高い ○買い物
- インターネット（テレビ含む）料金高い ○市民税が高すぎる（水道も） ○荒れた土地
- お店が少ない（ショッピングできる所） ○商業施設がない ○デイサービスもない
- 子供の用品店が少ない ○病児保育 ○高度医療を受けられる病院が遠い ○買い物まで市外ですます
- 病院（子育てのための病院） ○小児科の常勤医師不足・小児科少ない（入院させてほしい）
- 学校の送迎が遠すぎる ○送迎が大変 ○子供の移動手段 ○バス料金が高い
- 子育てにお金がすごくかかる ○重度の障害のため、バスに乗れない子もいる
- バスの運行減（移動が不便） ○子どもが少ない ○教育費高い ○学校が遠い ○習い事が少ない
- 子供同士で遊ぶ場が少ない ○屋内で遊べる施設がない ○教育に対する柔軟性に欠ける ○ゴミ
- バスの本数が少ない（20年後不安） ○黙害問題（猿が出る！こわい！） ○公園のトイレ等が美しくない

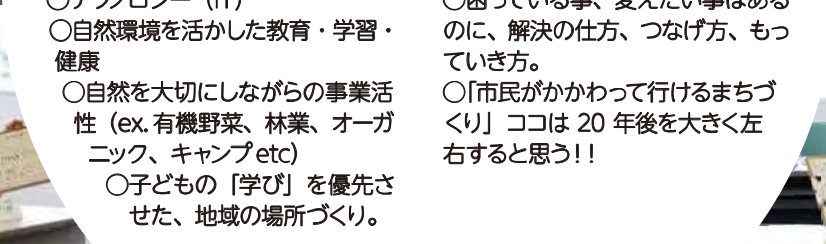
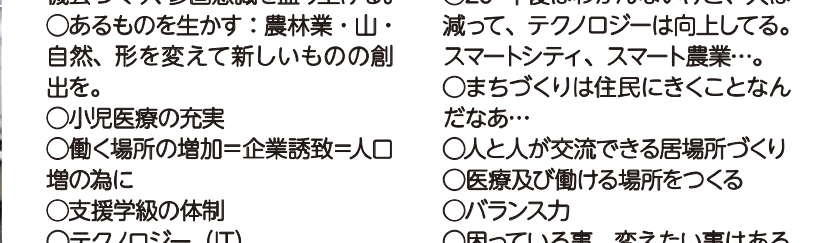
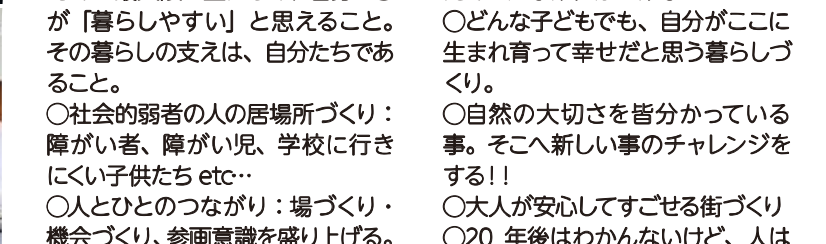
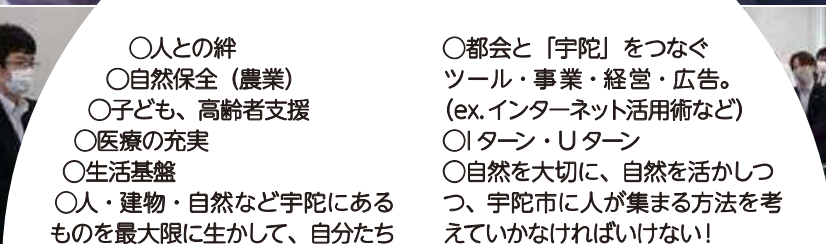
チャレンジするとういこと／変えた方がよいこと

- 雇用 ○IT教育（高齢者） ○障がい者の支援 ○高齢者が住みやすい ○遊び場
- （重度）障がい児／障がい者の施設 ○誰もが住みやすいまちづくり ○子どもの教育充実（オンライン）
- 医療的ケアを必要とする子どもたちの教育（環境が良くなるように） ○不登校の子のフォロー
- 産みやすい・育てやすい環境（働きながら産み育てる） ○学校運営 ○図書館と自習室の充実
- デイサービス ○子供用送迎タクシー ○農林業の学校 ○森や田畑を活用した遊び・学び空間
- 田舎ならではのつながりづくり ○電気自動車の普及 ○自動運転の推進 ○防犯 ○空き家土地支援
- 空き家対策 ○空き家を活用する ○移住・空き家バンク ○子ども高齢者支援
- 宇陀市を活かした支援 ○宇陀市の魅力を発信したい ○いろんな人・機関が連携となる
- 1ターン・Uターンへの取り組み ○榛原駅の活性化（サラリーマン世代増） ○自動運転バス
- アニマルパークとの連携 ○多様性を認める街づくり ○駅前の活性化／駅を残したい
- 全国的なイベント（宿泊につながる） ○企業誘致／仕事できる場 ○介護しやすいまちづくり
- みんなの居場所づくり（行政とも地域ともつながる） ○山遊び
- オートキャンプ／キャンプ場／スポーツ合宿所→施設を揃えて人を呼ぶ



私が大切だと思うこと

- 人との絆
- 自然保全（農業）
- 子ども、高齢者支援
- 医療の充実
- 生活基盤
- 人・建物・自然など宇陀にあるものを最大限に生かして、自分たちが「暮らしやすい」と思えること。その暮らしの支えは、自分たちであること。
- 社会的弱者の人の居場所づくり：障がい者、障がい児、学校に行きにくい子供たち etc..
- 人とひとのつながり：場づくり・機会づくり、参画意識を盛り上げる。
- あるものを生かす：農林業・山・自然、形を変えて新しいものの創出を。
- 小児医療の充実
- 働く場所の増加=企業誘致=人口増の為に
- 支援学級の体制
- テクノロジー（IT）
- 自然環境を活かした教育・学習・健康
- 自然を大切にしながらの事業活性（ex. 有機野菜、林業、オーガニック、キャンプ etc）
- 子どもの「学び」を優先させた、地域の場所づくり。
- 都会と「宇陀」をつなぐツール・事業・経営・広告。（ex. インターネット活用術など）
- Iターン・Uターン
- 自然を大切に、自然を活かしつつ、宇陀市に人が集まる方法を考えていかなければいけない！
- どんな子どもでも、自分がここに生まれ育って幸せだと思う暮らしづくり。
- 自然の大切さを皆分かっている事。そこへ新しい事のチャレンジをする！！
- 大人が安心してすごせる街づくり
- 20年後はわかんないけど、人は減って、テクノロジーは向上してる。スマートシティ、スマート農業…。
- まちづくりは住民にきくことなんだなあ…
- 人と人が交流できる居場所づくり
- 医療及び働ける場所をつくる
- バランスカ
- 困っている事、変えたい事はあるのに、解決の仕方、つなげ方、もっていき方。
- 「市民がかかわって行けるまちづくり」ココは20年後を大きく左右すると思う！！



奈良県中小企業家同友会宇陀ブロック

- ・ 倉庫の建設など会社の規模を大きくするにも、土地はあるものの規制に引っかかり事業拡大できない
- ・ 若い人が働ける場が必要。
- ・ 宇陀市には素晴らしいものも多く、大阪まで電車で45分、また名阪国道にも近いなど立地条件は良いので魅力を上げることが必要。



社会福祉法人 心境荘苑

- ・ 「誰一人取り残さない」よう一人ひとりに合った居場所づくりが大切。
- ・ 若い頃から障害のある人は福祉サービスの制度を知っているが、成長してからだと知らないことも多い。こうした人が生活できているのは、地域の人たちの助けがあったからで、地域とのつながりは大切。



榛生昇陽高校自転車競技部

- ・ 市内のロードコースは信号が少なく走りやすい。また、アップダウンがありトレーニングに最適。



宇陀市スポーツ推進委員

- ・ウォーキングなど同じような事業をそれぞれの団体がやっているが、連携して事業を行い健康づくりを進めることが必要。
- ・高齢者が増えていることから、普段運動をしていない人をターゲットに健康の維持に向けた生涯スポーツを通じた居場所づくりが大切。



宇陀商工会青年部

- ・市内でパート等で働けるところが少ない。また、事業を広げようと求人しても、応募がない。
- ・コロナ禍の中、地方で生活しようと古民家の相談や取引は増えているが、紹介できる物件は不足している。
- ・宇陀市は里山が多く、所有者が細分化されている。ただし、境界がわからないものが多いため、木を切ったりは可能だが山を活用して何かをしていくとなると難しい。



宇陀市仕事づくり推進隊、近畿大学

- ・商品を購入してもらうための情報を届けるのは難しく、サービスを受ける人が買って良かったと感じてもらえることが大切。
- ・起業に向け、宇陀市に移住し定住するにあたって、地域おこし協力隊制度は非常に後押しするものだった。何かに挑戦しやすい環境づくりが大切。



近畿大学は奈良県との包括協定における事業の一環として、宇陀産の食材を活かしたハンバーガーやプリンメニューを提案したんだよ。



